

越中一宮



第51号

越中高瀬神社
一宮

平成 28 年 9 月 1 日

撮影：南部スタジオ

<http://www.takase.or.jp/>

社頭講話

「自然から学ぶこと」

宮司 藤井秀弘

暑い夏の日も過ぎて秋の気配が漂ってきました。今年も三分の二が過ぎましたが、今年ほど観測史上初めてという報道がなされた年はなかったように思います。年明けの雪のない冬から始まり、例年、梅雨前線が北へ押し上げられ梅雨明けとなると、今年はその前線が日本付近で消滅して梅雨明けとなりました。その後は毎日三十度を超える猛暑日が続き、八月末になってようやく二十五度前後に落ち着くという暑い夏となりました。

雪解け水も梅雨時の雨量も少ないという、年頭から水不足が懸念された年でしたから、山の水田や里の畑作物など、枯れる寸前で萎れている姿を見かけました。私の畑も同様で、その様な姿を見ると水やりをせざるを得ない気持ちになります。暑いとか面倒くさいとか言っておられません。先日、用水神社の祭礼が終わってから、参列していた土地改良区の人たちが、何とか雨が降りますようにと、空を仰いでいました。また、隣の主人が夕焼の空に向かい、今年はずっと晴天が多すぎるので適量の雨をお願い

いたしますと言って、手を合せて祈る姿を見かけました。近いうちに雨乞のお祭りの依頼があるかもしれないと思っていました。幸にもその後、大きな夕立があり、しばらくは心配ない状況になって、安堵しました。台風が来れば大量の雨が降るのですが、台風も今年のは発生時期が遅れ、これも観測史上最も遅い発生日だったそうです。最近、雨が降っても風が吹いても極端な降り方、吹き方で、我々の生活に大きな影響を及ぼしています。今年も全国各地で被害が続出して、自然の摂理に人の生活が組み込まれているということをおぼやためて感じました。

自然の移り変わりの中のことだから従うしかない。確かにその通りですが、私たち日本人は自然の中に神様を見出し、私たちの生活に良い影響があるように、大きな被害がないようにと祈りを捧げてきました。その祈りに対して自然の神々からの無言の返答として豊作になったり、風雨の被害が最小限で済んだりしています。これは決して自然の循環によることだ

けではなくて、そこに人々の祈りが加わった結果であろうと思います。神前で祭儀を行い、祈念することはもちろんですが、今年、何とか雨が降りますようにと空を仰いでいた土地改良区の人たちの姿や隣の主人が夕陽に手を合せ、雨乞いを祈る姿が、自然という神々の御心に届き、良い方へ事態が動き、ひとつの結果となったのではないのでしょうか。

全てを受け入れてくれる相手との対話はとても簡単です。しかし、対話の相手が無反応だったらどうでしょう。何の答えも返って来ない相手との対話は心配、不安になります。まさしく自然や神様と対峙し、乞い願うということになれば具体的な回答はなく、ひたすら恩頼を乞い祈るだけです。願いが聞き届けられたかどうかは結果として現れます。

動物に声をかけて、自分の気持ちを伝えることをします。動物にもよりますが根気よく続けると理解するようになります。植物に声をかける人は少ないかもしれませんが、中にはきれいな花をつけてね。とか、大きな実をつけてね。と伝えるとそうなる場合があります。実際にその効果があったのかどうかはつきりしませんが、そう信じて実践するのが大切なことではないでしょうか。目に

見えないものや反応のないものに願いをしたり、語りかけたりすることは傍から見ているだけではわかりませんが、はたしてそうでしょうか。

この頃、定年退職などをきっかけに農業や庭仕事を始める人が増えたと聞きます。土や樹木に触れ、作物を育て、収穫するということは自然が与えてくれる最高の喜びなのですが、もの言わぬ大地を相手にした仕事で、どれほど自然の摂理を我々に感じさせてくれるのか計り知れません。

自然と神道の関わりは深く、当神社の場合、祭事のほとんどが農業や自然に関わる祭りです。神道古典の記述や万葉集の歌の中には古代の人々が自然と話し合い、対話している様子がうかがえます。神職が神々に思いを告げ、祈願する言葉を述べる祝詞の文章表現は自然との対話から生まれた表現方法だと言えるでしょう。

私たち人間は自然の摂理の中に存在していますが、ただ自然のなすがままに生きるのではなく、自然の中に神を見出し、心を寄せて、祈りの言葉を捧げ神々のご加護を受けて、今日に至りました。これからもこの形を大切に、おごることなく謙虚な心で日々の平穏を祈りたいものです。

祭事暦

高瀬稲荷社例祭

六月三十日午前十時より末社「高瀬稲荷社」の例祭を斎行しました。この稲荷社は、京都伏見稲荷大社より勧請され、商売繁盛の神様として崇敬されています。

例祭当日は、生憎の雨模様となりましたが、講員約三十名参列のもと日頃のご加護に感謝し、商売繁昌・社運隆昌・職場の安全を祈りました。



夏越の大祓



六月三十日午後三時、「夏越の大祓」を斎行しました。大祓は、伊弉諾尊（いざなぎのみこと）が黄泉国（よみのくに）の穢を禊祓（みそぎはらい）されたことを起源としており、現在では、自らの心身の穢、諸々の罪・過ちを祓い清める神事として全国のお社で行われています。当神社でも大勢の参列者とともに厳修しました。

人形感謝祭

古くなった人形に感謝の真心を捧げ、最後のお別れをする第十七回「人形感謝祭」を七月十七日午前十時より斎行しました。祭典前には、各人が持ち寄った人形を納め、別れを惜しんでおられました。祭典には、約五十名が参列し、神職が人形を大麻・切麻にてお祓いしました。



除熱祭



七月二十一日午前十時より炎天下の続く夏を乗り切り、農作物が無事に生育するように祈りする「除熱祭」を斎行しました。

祭典後、お祓いした御幣を畝穀田に立てて稲を祓い清め、夕刻には、氏子有志による「熱おくり太鼓」が高瀬の地を練り歩きました。



東日本大震災・熊本地震復興祈願
宮城県石巻市・牡鹿郡伝統芸能

牡鹿法印神楽奉納

八月二十三日、宮城県石巻市の伝統芸能「牡鹿法印神楽」が奉納されました。
法印神楽は、宮城県北部沿岸地方に古くから伝承されてきたもので、明治維新まで法印（修験者）達によって行われていたことから法印神楽とよばれています。
東日本大震災・熊本地震で被災された方々や、東北・九州地域の復興を祈って行われました。



「五矢」
素戔嗚尊が五本の矢を討つて諸魔諸疫を退散させたことにならう。御神楽に合せ五本の矢を放ち、御神酒を振舞う優雅な神楽。



「西宮」(蛭子)
蛭子は、五体が不具であるため、風のまにまに流された航海守護大量成就の神。翁の姿をした蛭子が釣竿で鯛を釣り、自分の生い立ちと西宮の由来を語る。

国家隆昌祈願祭

八月七日午前九時より「国家隆昌祈願祭」が斎行されました。祭典後、神前にて約二百名の総代・役員が見守る中、神社世話役表彰が行われ、多年にわたり社務運営に寄与された方々に、根尾紘一神社総代会砺波支部長より感謝状と記念品が贈られました。

表彰に続いて、「富山県神社総代会砺波支部総会」が開催され、事業報告・決算・予算承認の後、昨今注目されている「憲法改正」に関するドキュメンタリーDVDの上映会が催されました。



「日本武」
日本武尊に怨みをもつ悪鬼が、美女に化身して草薙剣を盗み取ったので、日本武尊がこれを退治し、無事宝剣を熱田神宮へと納めた。

七夕祭並 技芸上達祈願祭

八月七日午後三時、七夕にあわせて織姫様のはた織り・裁縫上手にあやかっつて、習い事が上達するよう祈願する「七夕祭並 技芸上達祈願祭」が行われました。

祭典では七夕飾りが祓い清められ、参列者は書き記した願い事が成就するよう、心を込めてお参りしていました。



第十六回人形展

第一期会

七月十六日(土) ~
十八日(月・祝)

木彫や和紙・陶器等、県外の作家十五名の創作人形が展示されたほか、草月流富山県支部「秀抱会(梅崎秀鈴会長)」による「いけばな」が会場に彩られました。

▽監 梅崎 親美 (秀抱)
▽銘木材提供 嶋田 数男
▽写真提供 荒井 恒雄



飛騨山静庵 (富山市)



松本 昌子 (南砺市)



横堀貴美子 (射水市)



川原 るみ (南砺市)



熊野 幸子 (砺波市)



笹波 美恵 (高岡市)



安達 陽子 (砺波市)



牛島 辰馬 (南砺市)



中嶋外志男 (南砺市)



鳥越 和馬 (南砺市)



南部 祥雲 (高岡市)



中林 雅代 (富山市)



上野 勝廣 (富山市)



太田 博夫 (砺波市)



中村 祐子 (高岡市)



草月流富山県支部「秀抱会」会長 梅崎 秀鈴

高瀬の英霊

(石岡外二命)

(魚岸一弥記)

石岡外二命は、富山県東砺波郡高瀬村（現南砺市高瀬）出身の海軍軍人です。支那事

や「浦波」^{うらなみ}、「薄」^{うすき}等に乘艦されていきました。

変勃発より約一年三ヶ月後の昭和十三年（一九三八）九月

「白雲」が、所属する第二水雷戦隊は、兵員の練度が非常に高く、最新・最強の駆逐艦が投入された海軍切つての

精鋭部隊で、昭和十年（一九三五）年四月、満洲国皇帝溥儀来日の際には、溥儀が乗艦した戦艦の護衛を勤めてい

ます。

光栄と存ずる次第で御座居ます。本月初旬勇躍征途に着き目下任地にて待機中に御座います。此の喜を各位にお分ちして本分全ふに邁進誓ふ次第で御座います。

戦雲正に酣此の秋に当り軍人の最も本懐とする出征の機を得ました事は、無上の

支那事変以降、「浦波」から「薄」に乗艦し、各地を転戦奮闘されておりましたが、昭和十三年九月二十八日、上海にて任務中に不慮の難にあわれ、亡くなりました。

先は簡単乍ら一筆認め各位の御健勝を御祈りいたします。

（昭和十二年）
十二月十一日
石岡外二

支那事変以降、「浦波」から「薄」に乗艦し、各地を転戦奮闘されておりましたが、昭和十三年九月二十八日、上海にて任務中に不慮の難にあわれ、亡くなりました。

計・被服・糧食を担当する主計科に属し、駆逐艦「白雲」

同年九月二十六日には、岩手県沖にて演習中、台風により多数の艦艇が損傷した第四艦隊事件に遭遇しています。

昭和十一年（一九三六）、同じ水雷戦隊所属の「浦波」に配属され、

昭和十一年（一九三六）、同じ水雷戦隊所属の「浦波」に配属され、

昭和十二年（一九三七）七月、支那

昭和十二年（一九三七）七月、支那

向寒の折から各位には一層

無念だったことでしょう。しかし、その功績・精神は、永く戦友に受け継がれていくこ



石岡外二命

撮影時期は、「薄」時代のもの

昭和十一年（一九三六）、同じ水雷戦隊所属の「浦波」に配属され、昭和十二年（一九三七）七月、支那

向寒の折から各位には一層

無念だったことでしょう。しかし、その功績・精神は、永く戦友に受け継がれていくこ

とになります。没後、その功績により海軍の三等主計兵曹に任官されました。

「薄」の第一分隊長 淺海六郎は、石岡外二命のことを偲び左記の内容を記していますので、ご紹介致します（『高瀬村報』昭和十三年十一月一日「故石岡三等主計兵曹殿の最後を偲びて」）。

外二君死去に際し謹みて哀悼の意を表す。君は昨年十二月駆逐艦薄、呉出動以來、中北支沿岸に転戦奮闘する事十ヶ月。航程実に一萬五千哩に及、各地の攻略戦に於ても武勳赫々たるものありしが、今回去る二十八日上海に入港するに際し、同日午後現地視察の爲上陸、五時五十分陸發薄内火艇に乗艇歸艦の途次、同五時五十分計らずも黄浦江上中流に於て、独国汽船海

福の進突するところとなり内火艇は瞬時にして顛覆沈没。乗艇の十八名は、或は江中に投出され、或は水中より浮び上り、内十四名附近通行中の舟艇に救助せられたるも、外二君は他の三名と共に行方不明となり。この悲報に接すや、艦員一同痛惜措く能はず、時を移さず在泊中の日本軍艦より派遣せられたる十二隻の短艇を以て、総員徹宵捜索に当りたるも、嗚呼遂に再び君の聲咳に接するに能はず。翌二十九日夕刻に至り、沈没内火艇を發見、之を引揚げたるも尚、君の姿を見ず。同江は干満に依る潮流激しく、遭難者は殆んど揚収困難との噂もあり、或はと懸念致居候処、十月一日午前五時五十分、不眠不休靈を呼ぶ戦友の心に応ふる如く本艦附近に死体浮

上り、直ちに艦に收容の上、十月二日上海居留民団火葬場に於て荼毘に付し、同夜は幾多戦友に護られ御通夜三日告別式を終り本艦任務行動上、遺骨は同地東本願寺別院に安置し、私有品は上海陸戦隊に委託致し置候間、不日便船を以て呉に送らるる予定に御座候。思へば銃弾雨下に活躍中敵弾の為に斃れしと聞かれなは、親御としても万歳を叫び家門の名誉として永久に崇め祭られしならんに、戦地に在りながら不慮の難に遭ひたりとのみにては、日夜御案じの程御察申上候。小官去る六月分隊長拜命以來、陛下の忠勇なる士を御預り申上居りしに、今回此の事あり誠に申訳無之、且又銃後にありて荣誉ある戦功の便りを鶴首待望しありし御遺族に対しても、如斯

悲報を齎らす事痛惜至極に存上候。然乍ら身を軍籍に投じたる日より、尚又此の度の聖戦に参加せられてより「丈夫一度起たは一死奉公の誠あるのみ」の決心と覚悟とを以て、刻苦精勵顯著なる功績を我が海軍に遺され候ひしは、本人の本懐とする処、今回の遭難も私事の爲の過失には非ずして戦地に於ける公務殉職にして戦死と何等異なる所なく、即日三等主計兵曹に任官せられ候事故、御案じなく英靈を御弔ひ被下可く、尚吾々も此の上とも益々尽忠奉公の誠を致し、外二君の分も共に相励み誓つて其の意志に副ひ奉らんと存居候。非常時局に際して御遺族皆様の御健闘あらん事を祈ると共に、外二君死亡状況詳細申上げ以て外二君の英靈の御冥福を奉祈候。

団体参拝日誌抄（平成二十八年四月～八月）

四月

● 六日 南砺交通安全協会



「交通安全ゆるキャラ隊員」の委嘱状を交付される南砺市のゆるキャラ「NANTO」くん

● 二七日 「鶉甘神社」（福井県）
水海氏子 青年会



拜殿にて正式参拝

● 七日 公益財団法人南砺市
シルバーセンター



宮司による講話

● 二三日 神奈川県藤沢市氏子総代会

五月

● 二五日 「今宮神社」（栃木県）
氏子総代会



宮司挨拶

● 二二日 富山県西部森林組合

六月

● 二五日 庄川電力所安全協議会
● 三〇日 押野西若鶴会



御鈴の儀を受ける神誠会の皆様

● 四日 「出雲大神宮」（京都府）
崇敬会



拜殿前にて記念撮影

七月

● 六日 越路ガーデン
● 二四日 山梨県神社庁北都留支部

● 一日 タカハタ工業株式会社
富山県労働基準協会
砺波支部
建設業労働災害防止協会
富山県支部砺波分会

● 四日 茨城県神社庁久慈支部
● 二日 松本建設
中越パッケージ

（敬称略）

団体参拝のご案内

古来より人と人、心と心を結ぶ福の神・結びの神であります
大國主命（大國様）をおまつりする当社では、会社の参拝（安全祈願・創業記念日）、必勝祈願、同窓会記念参拝等の各種祈願を受け付けております。
お問い合わせは社務所へお願いたします。
電話〇七六三（八二二）〇九三二

新年初祈禱のご案内

〜一年の計は元旦にあり〜

福の神・結びの神様であります「大国主命（大国様）」をおまつりする高瀬神社では、全ての災厄を祓い退け、心に平安をもたらす高瀬の大神様のご神徳により、ご家族皆様の安泰と繁栄、また諸々の願いが成就するよう祈る、「新年初祈禱」を承ります。

新しい年が事故・災難や病氣・怪我無く、家族の「絆」が結ばれ幸せであるよう、年頭にあたりご家族お揃いでご祈禱をお受け下さい。

・内容 家内安全（開運招福） 家族結び祈禱
商売繁昌（事業繁栄） 他

願意はホームページをご覧ください

・期間 節分の頃までにご参拝ください

午前八時三十分から午後四時三十分まで
（元旦は午前零時から午後六時頃まで）

・受付 ご祈禱入口からお入り下さい

・祈禱料 一祈願五千元より（ご志納願います）

ご祈禱をお受けになり、一年間清々しくお過ごし下さい。

まず大国様に初詣



戌の日（安産祈願）

平成28年

9月 1・13・25日
10月 7・19・31日
11月 12・24日
12月 6・18・30日

平成29年

1月 11・23日
2月 4・16・28日
3月 12・24日
4月 5・17・29日

腹帯のお祝いも行いますのでご持参下さい。

七五三詣（数え年）

本年は次の通りです。

- 7歳（女子） 平成22年生
- 5歳（男子） 平成24年生
- 3歳（男女） 平成26年生

※10月1日より11月末日まで、毎日午前9時より午後4時30分まで随時受け付けております。

平成29年 厄年・身祝一覧

（厄年）数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
	年齢	年	年齢	年	年齢	年
男	24歳	平成6年(戌)	25歳	平成5年(酉)	26歳	平成4年(申)
	41歳	昭和52年(巳)	42歳	昭和51年(辰)	43歳	昭和50年(卯)
	*60歳	昭和33年(戌)	*61歳	昭和32年(酉)	*62歳	昭和31年(申)
女	18歳	平成12年(辰)	19歳	平成11年(卯)	20歳	平成10年(寅)
	32歳	昭和61年(寅)	33歳	昭和60年(丑)	34歳	昭和59年(子)
	*36歳	昭和57年(戌)	*37歳	昭和56年(酉)	*38歳	昭和55年(申)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
※*…この年を厄とする地域もあります。

（身祝）数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和32年(酉)
古希	70歳	昭和23年(子)
喜寿	77歳	昭和16年(巳)
傘寿	80歳	昭和13年(寅)
米寿	88歳	昭和5年(午)
卒寿	90歳	昭和3年(辰)
白寿	99歳	大正8年(未)

※男女ともに祝います。

高瀬の宝物②

珠洲陶の壺

現在当神社宝物殿にて展示されているこの壺は、能登半島の突端、珠洲で焼かれた鎌倉時代末頃（約七百年前）の壺です。珠洲陶は、平安時代末から約四百年間焼かれた古窯で、鎌倉・室町時代を通して普遍的な日常の陶器（甕・壺・鉢）として流通しており、能登全域から越中・北加

賀に限られて分布しています。が、船の交易により遠く北海道函館から出土したことが知られています。当神社の展示品は、大正十五年（一九二六）、当時地域の主要な交通手段であった加越能鉄道の敷設工事中、当社東方約三百メートルの河南堂より出土したものです。



宝物殿ご案内

今年六月十八日に、宝物殿を改装、再展示しました。

殿内には、伊勢の神宮の御装束・前田家より奉納頂いた品々などが展示されています。お参りの際はどうぞご拝観下さい。



開館日時

事前には社務所へお問い合わせ下さい。

電話〇七六三（八二二）〇九三二二
拝観料 無料

南砺市 埋蔵文化財センターにて 高瀬神社宝物展開催中

南砺市埋蔵文化財センターにて「越中一宮 高瀬神社 宝物展」が平成二十八年九月三十日まで開催されています。

国政や日中友好に尽力された松村謙三氏の遺品や、縄文時代の石器類、刀剣などの宝物をご覧になることが出来ます。



平成二十九年「初詣献灯」の御案内

当神社では「初詣献灯」を実施しております。

本行事は、初詣期間中に正参道両側に「提灯」を掲げ、来る新年が更なる輝かしい一年となるよう、尚一層の御神徳を授けて戴くことを願ひ奉納するものです。

一、「初詣献灯」は正月七日まで、境内等参拝者道筋に献灯いたします。

一、「初詣献灯」は、それぞれ正面に希望の芳名（会社・氏名等）を記入いたします。

一、献灯者の家内安全・商売繁盛の祈願祭を奉仕いたします。

一、献灯初穂料は、一基につき 金壺萬円御志納願います。

一、申込締切 十一月三十日までにお申込下さい。

※記載芳名 例（約八文字）

一、会社

南砺市 (株)高瀬
高瀬産業株式会社

二、個人

高瀬 高瀬太郎
高瀬 太郎

ご案内

○「くにたまの会」の

バナーを設置

当神社のホームページに大図様を奉斎する神社の全国組織「くにたまの会」のバナーを設置致しました。

「くにたまの会」や同会に加盟している神社について紹介されていますので、是非ご覧下さい。

奉納

○「参道玉砂利」

富山市八人町

株式会社 岡部

代表取締役

稲積 欣治 殿

○「参道玉砂利」

南砺市坪野

株式会社 藤井組

代表取締役社長

藤井 秀之 殿

○「境内剪定作業」

小矢部市津沢

株式会社 越路ガーデン

※恒例の奉仕作業ですが、本年も爽やかな境内にして頂きました。

編集後記

先月十五日で、七十一回目の終戦の日を迎えました。護国の為、戦地に赴かれた英霊・先人のお陰で現在の我国があることに深く感謝し、英霊顕彰により一層努めていかなければならないと改めて感じました。

社報バックナンバー

当神社ホームページで
ご覧頂けます。

【表紙写真】

「いちのみやはし」から
境内を望む

特別な方々と特別な場所で 特別な神前結婚式



越中一宮 高瀬神社の神前結婚式は、ご親族だけではなく、ご友人にもご参列いただき、「伝統」と「新しいかたち」の神前結婚式です。縁結び神様のおはからい（御神縁）によって、新郎新婦とご参列の皆様がひとつに結ばれます。

縁結びの神様に誓う
伝統の結婚式を挙げていただく、
一生に一度の日だからこそ、
一日一組のカップルの為だけに、
このバンケットは生まれました。



一日一組限定の

おもてなしバンケットホール

このバンケットホールでの結婚披露宴のご予約を承っております。
お気軽にお問い合わせ、ご相談いただきますよう、お待ち申し上げます。

只今
春・夏の婚礼
ご予約
受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 🔍 検索